



報告

2016 年度論文賞の 受賞論文紹介

● 選定にあたって ●

山名 早人 論文賞委員会委員長／早稲田大学

論文賞は、本会論文誌各誌に掲載された論文の中から、約 50 編に 1 編を目安に特に優秀な論文を選定し、その著者に対して授与するものである。

2016 年度論文賞選考の対象となったのは、論文誌 ジャーナル、Journal of Information Processing (JIP)、論文誌 トランザクション 10 誌 (論文誌 プログラミング、論文誌 数理モデル化と応用、論文誌 データベース、論文誌 コンピューティングシステム、論文誌 コンシューマ・デバイス & システム、論文誌 デジタルコンテンツ、論文誌 教育とコンピュータ、Transactions on Bioinformatics, Transactions on System LSI Design Methodology, Transactions on Computer Vision and Applications) に掲載された計 591 編の論文である。これらの中で、実際に選定を行ったのは論文誌ジャーナル、JIP、論文誌 コンシューマ・デバイス & システム、論文誌 コンピューティングシステム、Transactions on Computer Vision and Applications の 5 誌であり、これらに掲載された 426 編の論文が実質的な選定対象となった。残りの 7 誌については、対象論文が 50 編に満たなかったため、表彰規程第 11 条に基づき、2016 年度の対象論文を 2017 年度以降の論文賞の対象論文として持ち越すこととなった。

選定にあたっては、表彰規程および論文賞受賞候補者選定手続に基づき、論文賞委員会による厳正な審査が行われた。具体的には、学会論文誌運営委員会委員長が委員長を兼ねた論文賞委員会のもとに、論文誌ごとのワーキンググループが組織され、優秀

な論文を選定する体制によって審査が行われた。その結果、9 編の受賞候補論文が選定され、理事会の承認を得て最終的に受賞が決定した。

受賞論文の著者には、2017 年度定時総会において表彰状、賞牌および賞金が授与され、総会参加者の皆によってその栄誉を讃えた。

2016 年度論文賞受賞論文の著者による紹介記事を掲載する。ぜひご一読いただき、論文には記載されない著者の想いや苦労も推し量っていただきたい。

最後に、これから論文誌に投稿される皆様にお伝えしたいことを記す。それは、本会では「研究あるいは開発成果発表の最終形態は学術雑誌の論文である」との考えに基づき、途中経過報告として認められる「本学会の主催・共催を問わず、全国大会、研究発表会、シンポジウム、国際会議等へ発表された論文」(ただし、主催者が途中経過報告と認めない場合はその限りではない)および「本論文誌に掲載されたテクニカルノートを発展・充実させた論文」については、二重投稿の対象としていないという点である。実際、今回の受賞論文のうち、6 件は本会での研究会、ワークショップ、支部大会等の論文を発展させたものであり、そのうちの 2 件は国際会議で発表した後、成果発表の最終形態として本会論文誌にまとめていただいたものである。このような制度をぜひ積極的にご活用いただき、研究開発成果の最終形態として本会論文誌への投稿をお願いしたい。

(2017 年 5 月 18 日受付)